

美しい友禅和紙を京都から

京和志

きょうわし

グリーティング
カード



京和志・友禅和紙



【友禅和紙とは】

着物の友禅染めのような柄を特徴とした和紙。友禅染めとは、扇絵師の宮崎友禅斎（江戸時代）が考案した、繊細さと鮮やかさを兼ね備えた絵画風の模様。



パール地の友禅和紙

【友禅和紙の歴史】

京都では平安王朝の頃より友禅和紙がみやび文化を支えていました。豊かな色彩感覚と、複雑な染め色の繊細な表現で、実用的な紙が加工されました。

江戸時代には扇・色紙短冊・表紙などに使われていましたが、現代では、貼り箱・伝統工芸品・和小物・和本・御朱印帳・祝儀袋など多くのものに使われています。

御朱印帳
おくりふみ



お茶缶

【手染め行程】

和紙を手染めするのは、気温や湿度・天候により伸縮し状態が変化するため、大変難しい作業です。京和志の友禅和紙は、京都八幡の小さな工房で熟練した職人が一枚ずつ丁寧に手染めしています。型を使い版画の要領で、色かず分だけ「重ねて」「染めて」「乾かし」を繰り返して、出来上がります。へらの角度や染料の粘度、型の特性や柄合わせなど、細心の注意を払い染めていきます。一日に染められる枚数は限られており、大量生産はできません。とても貴重な和紙となっております。



大型へらを左右に動かして、染料を均一にしごき染めます。簡単に見えますが、経験を積んだ特性を把握している職人にしか上手くできません。

染料は絵の具のように微妙な色彩を出すことができ、顔料1滴の配合により同じ色を出すのが難しい。

【現状】

友禅和紙は薄利なため、全盛期より製造工場が激減し、存続が危ぶまれています。職人の高齢化や後継者不足、原材料を作る農家の廃業や工場の老朽化など問題が山積みです。

友禅和紙を
使って
ください♥

京和志は、友禅和紙の
素晴らしさと共に、
後世に残したい想いを
伝え続けます！

京和志HP



京和志・かおりふみ

